

議事1：震災復興メモリアル全体の基本理念について

論点「仙台市として特に重視すべき視点は何か」

◆重視すべき視点

東北のなかの仙台

- 東北を牽引する
 - 被災後、東北—仙台のつながり、仙台への期待が強まっている
- 東北全体のメモリアル
 - 仙台をつなぐということはもちろん東北全体と考えることが重要
 - (代表・見本となる)東北のメモリアル。東北の沿岸部をつなぐ。
- 玄関口としての仙台
 - 玄関口として、仙台はどのように表現していけば良いのか。

仙台市全体をつなぐ(丘陵部～沿岸部)

- 沿岸部だけでなく市全体をつなぐ、見せていくにはどうすれば良いか。

時間軸の整理が必要

- 議論の時間軸がいくつかあって良い
- 「長期」と考えた場合には、伝えるべき「何を」の部分で残っているのは、「教訓」「再生したもの」「願い・祈り」くらいか。

未来へ向けて

- 未来志向
 - メモリアルは振り返るだけでなく「未来志向」の部分強調することが重要
 - 震災からの復興のみでなく「将来を見つめていこう」という視点が大切
- 「これから」の視点が重要

形ではない「心」や「想い」

形でない「心」や「想い」

- 震災からの心の復興
- 「生きていこう」という心の部分
- 被災者された方の「想い」をどうつないでいくのか

メモリアルと防災・減災のつながり

- メモリアルをやりながら、防災・減災意識をどう高めるか。意識を高める装置として遺構やアーカイブ等がある。
- 改善策が見えていない。学校ごとの(地域特性に対応した)防災マニュアル等ができるとうい。そこにメモリアルやアーカイブが関わっていけるのでは。

◆仙台市が提示した4つのテーマ以外の意見の扱い

5、6番目のテーマが必要

- スポーツ・文化・アート等は4つのテーマにはまらない。
- 4つのテーマの事業を完了したら終わりのように見える。

文化・音楽・スポーツ・アート

- 東北全体をふるいたたせたもの
 - 震災で沈みがちなところをスポーツや音楽がふるいたたせた。
 - 震災復興において文化・音楽の果たした役割は大きい。

3、11の過ごし方

- 思い出す仕組みが必要
 - 3月11日を休みにする。
 - 伝える、嫌でも思い出す仕組みが必要。

◆基本理念の作成にあたって

全体をつなぐ部分

- 基本理念は抽象度高く
 - 語られようとしていることが具体的にすぎず。それでは長期に渡り継承されない。
 - 基本理念は抽象度を高めて、強度のある理念とすべき。
- 構成について
 - 「全体の基本理念」の意義は「時間をつなぐ」だけでなく「つなぐ」ではないか。(震災以前の津波や、政宗公の取組も含め)

人をつなぐ部分

- 組織が必要
 - 組織について、何を立ち上げれば良いのか検討が必要
 - 将来は〇〇を目指す、現在は〇〇と時間を分けて説明できれば。
 - 仙台市内部にも組織が必要。(長期につなぐため。短期的には既存事業の円滑な展開のため。)
 - 組織が見えないと、市民への呼びかけや、発信もできない。

4つのテーマについて

- テーマという名称よりは、「具体的な取組み」では。
- テーマの書き方も抽象度を高めてはどうか
- なぜメモリアルのテーマと設定したのか、そもそもの理由付けが必要。

議事2：震災アーカイブの利活用拠点について

論点「①中心部と沿岸部の機能配置としていかがか」「②沿岸部の利活用拠点をどのような場にすべきか」

機能配置について全体として

- 仙台は「線」での発信
 - 阪神・淡路大震災は「点」、中越地震は「面」、仙台は「線」(※2拠点での連携を表して)での発信と言える
 - 仙台として「線」で伝えることは、物理的距離は近いけれど、被害の差がある中心部と沿岸部の距離感をビジュアルに伝えるには重要。
- 宅地被害の状況を伝える場が必要ではないか
 - 宅地被害の内容が抜けているのでは。発信の場が必要。

他都市拠点との情報交換

- 沿岸他市町村のアーカイブ拠点とどう情報交換をしていくのか

アーカイブの内容について

- 次の災害に備えるためにも、公文書ができる限り残してほしい
- 公務員(とその家族)の想いを含めたアーカイブが必要。

